

Title	正誤
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1949
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.42, No.3 (1949. 3) ,p.161(19)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490301-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

してゐる。何故明治になつて人口が増大したかといふことについて、やはり人口問題について興味を持つて居られた故上田貞次郎博士も頻りに疑問とされて居つた。私も何故増大するかはつきり申上げられんのでありますが、大體において無籍の者が非常に多かつたからであると思ひます。江戸時代には籍のなかつた者が各地に散在してゐる。殊に大都市附近並びに宿驛等の附近においては籍のない者が非常に多かつたといふことがいへるのであります。それが明治になりましてゝの關係で籍を作らなければならぬことになる。一番多いのは夫婦になつた時であります。江戸時代に地方に出掛けて行つて籍のなくなつた者が女と一緒になつた場合「お前は何處の者だ」「何々村の者だ」さうするとその何々村へ問合せが行く。現にさういふ照會狀が澤山残つて居ります。一旦ぬなくなつた女が男を連れて來たりなにかした者もある。さういふものを集めたものから推測しますと、どうも幕末の人口數は三千萬といふ推定よりもつと多くなるのではないかと思はれるのであります。關山氏の報告には江戸とか京都、大坂とかいふやうな大都市附近の人口數が非常に少ないといふことがいはれてゐるのであります。現實にはむしろ多かつたのではないか。むしろ無籍者が澤山ゐたのではないかといふことがいへるのであります。もしさうだとすれば全國人口數は増大することになるのであります。

時間がありませんから詳しく申上げられませんが、今後どういふ方向に向つて研究して行くかといふと、私どもとしては根本資料による各地方の人口構成をもつと調べてみれば解るのではないが。即ち人口の出たり入つたりすることのために年齢層に變差が出來て來る。詰り生れてから皆書いてあれば——極く簡單な例を挙げれば、前年の十歳のときの數が翌年の十一歳のときの數より多ければ差支へないが、今度十一歳がうんと殖えてをると假定しますと、そこに特殊の人口差異が出來て來るわけで、年齢層を比較調査することによつて或る程度まで知ることが出來やしない。

それから根本資料の正確性を補足するための他の資料の調査、言換へますと人別書上げ帳、村人別帳、かういふものが澤山ありますが、さういふものを参照することによつて解りはしないか。また人口調査の脱漏に關する資料、例へば銚子の濱で雇つた人口數とかさういふいろ／＼な無籍者の人口數を調べてみると、そこにいろ／＼な結果が現はれるのではないかと思ふのであります。差當つて私は宗門人別改帳に現はれた數字を目下調べつつあるに止まるのであります。結論らしいものも申上げられませんが、大體私の研究してゐるところを申上げた次第であります。

正 誤

第四十二卷第二號

- 五三頁 下段 九行目 點(x, y)は點(x, y)に訂正
- 五七頁 上段 二行目 $1 - \frac{\partial^2 S}{\partial a^2} (x^2 + y^2) \wedge 0$ は $\frac{\partial^2 S}{\partial a^2} = 1 - (x^2 + y^2) \wedge 0$ に訂正
- 五八頁 上段 一一行目 法簡便は簡便法に訂正